

永楽園の思い出

二十五回生 尾崎 光彦

奥田陽一さん、本当におひさしぶりです。先日永楽園について姉の金尾景子に依頼された件、私にも協力を頼まれましたので、多少でもあなたの企画構想のお役に立てればと、思い出せたこと、判ったことを纏めてみました。

でも冒頭から「大阪住宅経営株式会社」って何？イ

ンターネットでわかるのかな。ここから千里山、永楽園、などのキーワードを頼りに千里山を巡るインターネットのジャングルに分け入ることになったのです。

千里山自治会、関西大学、千里山会といろいろ辿っていくうちに幼いころの情景が走馬灯のように懐かしく思い出されてきてますますのめり込む羽目となりました。そして「千里山会」のHPを拝見するに至りさらに驚かされました、なんと素晴らしい会があるのですね。

奥田さんからの問いかけ

一、千里山を開発した大阪住宅経営株式会社と永楽園との関係 これについてはかなりジャングルを彷徨って見ましたが結局何もわかりませんでした。

(参考 千里山会HP 千里山開発物語、千里山自治会HP 千里山の歩み、など)

間違いを承知で私なりに推測しますと・・・大阪住宅経営株式会社の壮大で超モダンな郊外住宅開発の思想と、10戸程度の「耕作地(約100坪/戸)付き賃貸住宅」というある種半農村ユートピア的な永楽園の開発思想とはあまりにかけ離れています。たぶん大阪住宅経営株式会社の住宅開発が軌道に乗った後の昭

和ひと桁の頃に、家主(地主)一族がこの地に永楽園を開発したのではないのでしょうか。

(永楽園の開発規模 当初(昭和20年代前半)家主2戸(耕作地付き)、賃貸住宅9戸(耕作地付き)、さらに周囲にほぼ同じ広さの粗造成済みの拡張予定地があり、完成して約20戸か)

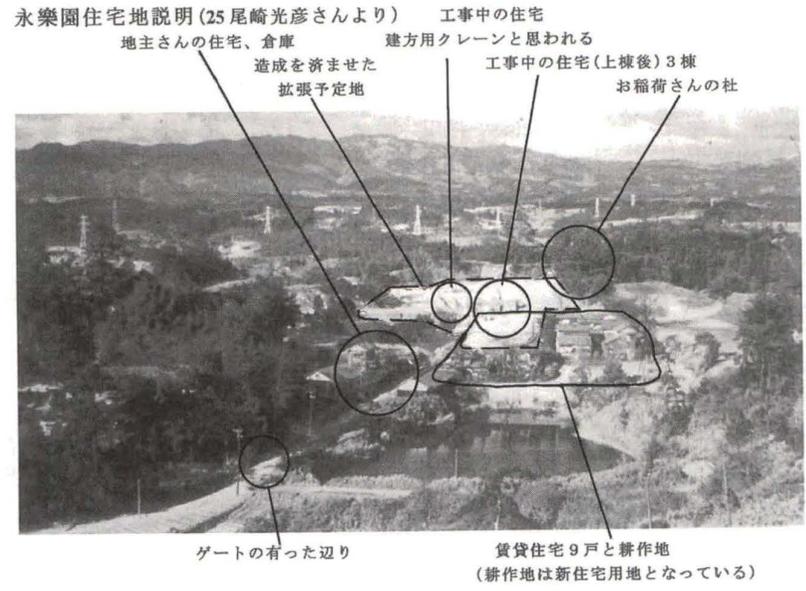
理由① 千里山住宅には立派な千里山神社(お稲荷さん併祀)が大正15年に大阪住宅経営会社により祀られています(千里山神社HP)。

一方永楽園は最北部の丘に小さいながら独自のお稲荷さんが祀られています。

理由② 永楽園の入り口には立派なアーチ形のゲート(永楽園の門)がありました。これは千里山住宅との境界を意図したのでしょうか。(昭和25年のジェーン台風で倒壊したと記憶しています)

この①、②から永楽園は明らかに千里山住宅とは別の住宅地を目指したと思われまます。

理由③ 家主一族の2軒は入り口近くの好位地であり、洋室を持つハイカラな住宅でした。他の賃貸住宅は和室ばかりの間取りで、普請の程度にも差がうかがえました。



理由④ 上水道は当初から引いてあった、各戸の台所は畳の高さ(床組み上)となっていています。上水道は郊外型住宅では必須なのです。千里山住宅開発では上水の確保に大変な苦勞をされた(千里山会HP・千里山開発物語)が、その上水を分岐してもらえなかったからでしょう。

理由⑤ 永楽園は、当初から賃貸住宅を求めていたか、半農・サラリー生活と畑作りを楽しみたいか、千里山住宅に少々手が届かないかなどの層を対象としたと思われます。借家人の主は殆どが大坂方面へ勤める人で教員、公務員、会社員と結構インテリ度は高かったのです。

二・永楽園から千二小への通学路 「上の道」(上下の噴水を結ぶ道を経由)と、線路の東側を通る「下の道」がありました。奥田さんのいう「線路北のバラック建て住宅」(千里山自治会HP「年表 昭和25年の千里山東第一市営住宅」)の工事で道路は整備されましたので、この時(私は小学3年)以後は駅までの「下の道」が通学路になった筈です。低学年のころ主にどちらを通ったのか定かに覚えていません。しかし低学年のころも「下の道」ルートを通学路にしていたのではないかと思えてなりません。

理由① 永楽園の池には樋(ひ)池の水を排出する装置)があり、そこからの水路(樋からの漏れ水程度で流水は殆どなく湿地帯とほんの細い溝)は小学校の小川(佐井寺のダイラノ池からの糸田川)に流れるようになっていて、この水路沿いには小規模ながらポツポツと畑があり、それらを結ぶ畦道を辿って踏切の東まで行けたように思います。

理由② 低学年のころに「上の道」沿いに数人の同級生(俵君、林君、山崎(牧村)さんなど)がいましたが、朝誘い合っつてとか会っつて一緒に行ったという記憶が殆どないのです。

三・公団の千里山団地建設の影響(昭和32年入居開始) 永楽園にとって直接的には丘の向こう側の出来事であり殆んど影響はなかったと思われます。

しかしながら古色蒼然の永楽園住宅の住人には、公団住宅内のダイニングキッチンや近代的な水回り一箇所、風呂、トイレなど近未来住宅の在り方は少なからず知的興味を刺激されたでしょうが、賃貸住宅のせいもありこのことで改修などが促されませんでした。

四・阪急電車の延伸の影響(昭和38年開通) もう確実に時代が変わってしまったのでしょう。古くからの住人は電車の騒音も、池がなくなっつたこともそれなりの

こととして静かに受け止めていたようです。

実は、それよりこの数年前に起きた「周囲の拡張予定地と各戸付耕作地は別会社の手に移りそこに約20軒の分譲住宅が建てられ、新住人が大勢入居してきた」ことの方が一大事で、これでユートピア的な永楽園は事実上ピリオドが打たれたと思います。すでに従来の住人は高齢化してきたうえ、社会・経済の高度成長に伴い耕作地のメリットはもう無くなって来ていましたが。

永楽園の思い出

一・千里山の北の果て、僕らの遊び場 永楽園は千里山の「北の果て」、ここからは北も東も佐井寺の里山で雑木林、竹藪と畑、果樹園です。この一帯は永楽園の子供たちのかけがえのない遊び場でした。

永楽園の池 春は鮒釣りです、鮒はたくさんいました。(ボテンは口が小さく釣れないので無視。夏はヒシが茂っつて釣りは不可。)

夏は螢、見つかると近所の子供誘い合っつて見に行きました。そして牛蛙(「シヨツカン」(食用蛙の略か))と呼んでいました、何語?、その鳴き声のすさ

まじいこと。ヤンマ釣りも水辺の愉快的な遊びでした、掛け声は「ヤンボーエ!」。ギンヤンマ、オニヤンマ、時にウチワヤンマ!

池には1m近い鯉が何匹かいて、北側の浅瀬の葦の茂みに現れると池の上に張り出したエノキの太木に登って上から息を凝らして眺めていました。

耕作地 住人は各々の耕作地に思い思いの野菜を植えて果樹を育てていました。灌漑用の水は耕作地内数か所の共同井戸から汲み上げなので大人たちは大変苦勞をしましたが、戦争直後の食糧難の時期は大いに助かりました。桃、柿、イチジク、トマトなどは子供たちが勝手に採っても殆んど怒られません。もぎたてのイチジクとトマトの美味しさはまさに格別でした。

拡張予定地の原っぱ 一中裏門の南一帯は背丈を超える笹が鬱蒼と茂る原っぱ(「ガサンバラ」と呼んでいました、何語?)。ここは裏門の使用禁止で中学生も来ず、僕らにとつて秘密基地遊びには格好の場所でした。

お稲荷さんと奥の里山 夏は蟬捕り、お稲荷さんはそのメッカ、アブラゼミとニイゼミが殆どで、クマゼミ、ミンミンゼミは超憧れの的、時々声はすれど

女学校です(そのころはまだ校舎が残っていて、管理人が住んでおられた筈です)。私は中学時代の夏に、ここで泳ぎを覚えました。泳ぎ仲間は佐井寺の友達、ミズスマシ、アメンボ、蛙、まれに蛇。

二、永楽園そして千里山 このように私にとつて、27回生の萩原さん「MY千里山」同様「私の心の千里山」は小学校卒業ぐらいまでではないかと思つています。この間は永楽園とその周辺で奥田さんや萩原さんと同じような幼少期を過ごしていたと思います。当時周りには何も十分になく遊び道具すら自分達で工夫して作り、「肥後守」という折り畳みナイフを持って野山を駆け巡ったあのころは、物に満ち溢れた今の子供たちよりある意味でずっと幸せだったのかなとも思っています。現在は萩原さん同様の感慨に耽っています。

千里山は千里ニュータウンの開発からほぼ完全に取り残され、一時はまちの衰退が心配されました。千里ニュータウンの開発が千里山に大きく関わったのは、千里山線の延伸と吹田一中の移転それに大阪万博などがありますが、いずれも千里山の活性化のインパクトにはならなかったようです。しかしながらこのために千里山は巨大開発の喧騒に巻き込まれず関西屈指の良好な高級住宅地として見事に生き残りました。機

も高い所にいて悔しいけれど全く捕れない。夏休みはツクツクボウシが鳴き出して終わり。奥の雑木林の中に近所の友達にも極秘のカブトムシやクワガタの来る木が3本あり、こっそり見回ってひと夏に10匹位捕れて自慢の種でした。

里山の中にはいくつも小さなため池があり、奥田さん同様試みの魚釣りをして回りました。どこの池でも「赤んぼら」には悩まされました。2か所の小さな池に謎の物がいて瞬時にハリスを切られ姿すら見えないのです。佐井寺の友達に聞いたなら「たぶんタイワンドジョウ(雷魚)やろ」。

ダイラノ池と小学校の小川 永楽園の池の堤防を東へ抜けるケモノ道は佐井寺への近道、小学校とダイラノ池のほぼ中間あたりの糸田川に出ます。網とバケツを持ってこの小川とダイラノ池にメダカ、ドジョウ、コブナやザリガニ捕りに行きました。ゲンゴロウ、「シヨツカン」のオタマジャクシはいいとして、タガメ、タイコウチ、特にヒルは怖かった。

青池 奥田さんのいう「水のきれいなため池」(「青池」と地図に載っていたのを覚えていますが)、本当に透き通るような真つ青な色をしていましたね。土人踊りの後行かれたなら池のすぐ手前にあつたのが旧精華

会があればその渦中で奮闘されて来られた地元選出の市議員の藤木祐輔氏(25回生)などに伺つてみたいですね。

一昨年の秋、千二小卒25回生で大学卒業後程なく千里山を離れてしまった神屋敷君(愛知県在住)と湯沢君(神奈川県在住)で作る「三人の会」(共に茨高テニス部OB、毎年会つてどこかへ行く会)で久々に千里山を訪れました。千二小は事前に連絡(セキユリテイが必要)しておいたためか、なんと校長先生が校内を案内してくださいました。往時を偲べるものは二宮金次郎の像、校長室の歴代校長先生の写真(懐かしい木岡先生、有川先生、西田先生)と旧校舎の一部をリノヴェーションした隣の佐井寺・千里山図書館でした。続いてその図書館や下の噴水、彼ら二人の住んでいた千里寺、千里山神社あたりなどを散策しました。駅南西部のこのあたりはまだ昔の千里山の風情が残っていて、とても懐かしく思えました。

このときは永楽園にはグーグル・ストリートで見ても往時の記憶につながる「よりしろ」が全くない(お稲荷さんもうない)ので足を向けるのをやめたのですが、この原稿を書いているうちに行つてみたくなってきました。

完